元録板

安慶拾遺

神田駿河台鹿島町
三河屋幸三郎

特別
へ13
2691

東京都立中央図書館

門へ13
2691
踊
巻

明治七戊
菊月吉日
表紙蒙

明治七年九月吉日表紙蒙

[illegible]
[illegible]
[illegible]

をとこそつてきされそもそもたごごんの
ちごこ二山まうこしられそこしられそこのあひのしへ
さぶ。若一夜のせいぎんよまこごひているよくこの
くの恩ひりんをそあられさうけうして
あてたうへきおそれぶらうけてきしはこびう
やまひのせごうけてあつこらやらやあん
じやうおそそぶよくこまこれ事かこもうく
をあくへしこそでおらここうきはうのまんべ
くしあまこうこそとつの生れもけうごうこ
ほあめくゆへいそのきんるいこそせうたう
てこなうう。今ようふ後こうごんよ心こうあれて
しわこなれをれ一人をあくるこあへうは

若一夜一人よ一山のそせうをもひくこはうを
こうつこうはこうひあへくこ同んよりされ
られこのいきんの弟やうこまこれあう。
いうこ夜ぶちごこと親父の文の
ひこれこう。面こはこうはちこおの弟ひんこう
られこちごい人のきこきこれ。大の眼ようぶ
こここみいこ。かうはの○あれちこうこあ
らいきこれくれちこれこおこうこ百
師近られこようこてこきくこる。こ頼こ
面こうくこごんこうこ道の和語一河ふ
これこいこ。其後の弟ひこうやうい。はるんら
半おこうこうきせう。ぎんせたうらいこ

しかるに思ひきれた。一山のそとこれ
これそこへ。先ごろ。ごろ。おもふ。ぜ
ぜひて。ものもやりぶしを。後行ひて
きうそん者へ。行わせられ。ちごかられと愛
ぜひて。ものそれ。をあそうぶそん
えて。ごろ。一行。ごろ。思ひてから。
縁をいろ。ち。縁よりて我をこうきこ
かせられ。ひ。今事うりしやうん。せひあり
むそ。ひれ。光心せためんして行りそふ。
ちごかろ。ごあんしそ。ちろ。ぶなり
ふう悪ものれ。ごうさ。ひてごろ。ものそ。
ちひ。ろ。ひ。坊。ろ。ぶ。ひ。そ。おそ。ぶ

んのうらふ思ふやう。日本國より出るのがりてい
かうけそうこうまれこうのみよ久しくしてぞく
たいまて寺をいでんてそなたこなたねがうをもとめて
やう思へとしどをうへ行ひいでこうこうへいつい
まれそうへうこうとうへさぞうりしねをあんどう
ふ日本國の中より行そうこうさきをもこうこうへもつた
つをとそうられこうこうをいかやなれい別面まうこ
ゐうぬうてまりませいた大納言ざうしい一字千金の
うれんなれいぞのしなう文人をうみてうと
とそうせどぞしやうのうこうこうこうやまふぞ。あう
むりしのうこうやうそうぞうこうみをうれたものて。
ざそうふうそしらひうれ。ゐうそうのけたしうこ

うそうぞいぶんうこうてゐうそうのけたしうこ
まけうこうそうぞんのうこうやうこうこうこうのうたう
ぞんをむいうこうれてうのうのうの

ひとりも命をうしなひたるものなしと
こゝろえうるひとのあるいかうらうとなれたるものなし。
らくしゐ俳とゝ称へとゝ称へ
もやうもうもうも

が脈よりどをそくぱくとめびあらわるき門播乃
ゐるまひうれしめくそんごういのちゆごめうをこと
だめてきてこそそぶらんさんたまうまーいいうれき
ぢうへさうらふ者をあるべきひたまうとむきうれし
そこうのうらよ者ゑ紙うのてそーやうゐのいく
ちそんじ殺ゆかまこさ海でのてゐりとも門播殺
乃大名ぞ衣一えふさわて作めへいあうまう。衣や
行ちさいめうやれうさこつまーふとてーてーん
のうれめうまこそこうそんごこそのらにめごア
さんこそふそにうもとめがれうもこうたうふ
神もめざ殺へそのたくうをめこ殺へそこひう
河よそにありいまうさこそふたくうを

そこちめうそんの衣ふせいごうのうのこのめう
ありだとそにに長刀作しふつこいうのそうと
こふあーさこいこてつぎこーそんよりに法師ふ
そこいれ作せそれ泥められア殺へ者う
ら門ていめんがくなうこそひそうぷんの中に異
やうにあこきーやうこう佛のいまへまそこう
だうこいとこうもう作くぷめこそこうてーまんい
なのきこそ作しむめ紙とこへてそのこそーい
とやぶうこうーやうんこと異ひてみくうしそ
くへこもこうへと者しせんこそひこたきこそ
よいうこうこの小神とこうれこそこうこのせいこれ
年こそいうこそこうあうしこそめとこうへ

さてのちはへてぞうちよりおいかせられたへいこうめん
ぼくとうなひいんのつとあること相撲
人のうちにそのぶあること相撲
人のうちにそのぶあること相撲
てぶこつのうち駕さしれおいそろこさぶあるひぬ
るひぞこ移ひそくぞうんぞうとゆんとられで。
大道へ行ひ初ぶぞうのうらうそうぶこうを
ゆくなくてみくるしくぶこもりさん中だうへ
ぶへえそそされよれおいのこそ寄うそう中堂
ようこゆんうぶぶこ海、ひして海んぞう紛へい。
そくむるくぞうのれそそぶうちしやつを
ぶこうんのいえそそぜんぞうしてあるかこのの
だうしやあるこのこそ寄うそうぶのこうを

まこうあるれぶなれぶるこのあ紙こ井へてこうう
そうのうこうらのうへをひこのうこあやうこぶぶこく
うこをかぐめそぞあゆまれくこ六十あまうの老
僧のぶこうこをうへみうこめてあくこの小袖よひやう
こうんのひうこまこそこ弁慶をこうこうんこうみこけ
まこぶ。老てみこくびちぐふなうこはうやうれまこあ
ぶへこぶ。屋うやくこのの日しくこわこぶまあんこ
のぐこうへこをこうぶてこかこ高山衣のんこうぶつく
しこうくぶぶぐこうをこをこうこ足をこぶぶぶこえこれ
こうこをみうくなうこ足をこぶぶぶこえこれ
てぶうのぶへしこいひこてこぶ。京のうこうぐこの
かりこる

さて弁慶は四つのやうにしてそのうちせをみ
名をとろうへいは日本國をゆびさしていろこと
をつぶやいてゐたりて我ようにおなじいたら
ぶんとうへしてそうしてみるれよまさきろおあり
真ゝ丸大道ゝをとおくてゝどうかとなる。
なるほくゝとうめいぶんあゝいたうらうやまひ
天下をとられてゐるのうらおうへしてうらい
さういはせんとおもふ太刀かゝれなくていろれまう
よそこてゝうこうぶらりおりてゝうそうに是
いた大臣もてゝそうゝ此刀をいたゝ太刀を
天六寸ゝこれゝ天九寸ゝ行あゝく一尺八寸のう
らうれあひとへらてゝもんとあゝしやそ

ぶさのうまれてはじめてのもらつ
めてどうぐをせたるのこんれいあれいうらなりとせく
ものとうかがいおもうとうとおもうとうとおもうとうか
ゝりの弁当のれいかさまよりうひてわたせ行へ
ひとりでおもうたやうおよりて来せんとてうら
つまりてゆきとうのうちよりせ行へてうづを
とり外よりうとせどきとてはれいかをんとうふ
らぶしてどりこと乃うこの日まてとしみしと日い
くれわまたあまりおれそうおむひとうへ来う
ひとうしやをもつてはうをとりありそれいまは
うくさやうのるゝうれいかせらくるむひとち
ういちくなくてそくどくそんをしてのうとへ

とゆうとうとそれいかくら弁当よりうとれいかくそ
たくしまやうどくこの事をはるの条乃
吉内方来つてのれさのくの上ものありそうもへ
ゆうふ松屋乃門乃ひあらぶくそどふしわ
うそくして来せうへしやうとそれう奉行
おもうとうとうのされどそれよりて平家乃れいか
せくいへ行事おいぐさとうとぶへきとうてうあ
うじやうとうとうとうとうとうとうとうへ
ひとれいへ弁当のとうとうれいかせまへ太日い行
おうとうまくおかくんいう拍乃門まへ
らせまくの門事おいくいそ屋とれあひくこ
とくそのとくおのくとうおくとうとう弁当のとう

こびゝゝゝれさいくのはぶきをあひてゝ小童
あへまのりそうゝみちまてゝ卯ゝ
とゝくはをてあゝいゝゝみゝ太刀ゝゝれのうるく
ゝゝゝゝこゝゝゝゝくゝゝゝゝ

うちへらびいてあらくあらくあらく

をれば、ちいさいつくりをなくうせふそうの次の
ろうかをんの事はせんひろひまえはしをれが目の
まへよりあり所のかくれのあるめるありんをんが
思ひしおうせめるこをそうかりられて大
いさ所いでそめるりけりさてをんのいつくく
と思ふ所ふとでおふ仏の所へまへてたらて
ふちうたりうはとあるぐりあるこまりられ。
うぐちりやうじやの所へりたりとそひられ
ム人のをれもぶうきりとせうやて。
真ろうをなべをんぐのせうて京いれうふふ
らびなれちやうしやあと学られうれがりへ
ゆうんをむうしあるれ日の所ぐふ

くぐんの所をうきれをうて。ぐ孫あて太月
うれをう。長月所しふつぐ家のをうとみる
しをは大がくうもうはとは。ぐひをなくあの
冥町きうふ大坂をかりうんくいをうをひき
うのてをうたう数十人ぐのがりゆくやひ
やうちやうをくくのへぐをせんの所をくあくれ所をる
ううふをうんと我もくあくあるくをれをる
并巻人を人をを思ひのいの所和
ふもめ我うの所ををんの所をうをあんなひうを及ば
をいうきくふ庭の所をくをを我ぐくあゆくび
ろをんをうちづのをを。ていしゆの所春しくをを
ふをうぐうの所ひせいぐうれ大ちうをこうひ作り

乃うらぶせまくへさぶらふさ
とあひそへふ長刀とりそへたるつかうれた
ばくをいしらたしなるべたく今のこころとおかり
くてしてそうしさうづこうちうし。家のみうう
ちうにて十人ばかりやうぎこそ六ばかりとおせ申ぬと
とふけうあるおへ弁参よたのうまそこれれおん
ごくより熊野さんけいのあるぎやうじやなう
らうまいよばきてしたくうにありてそびくへ
いふゆうこうこうれをゆかりかきふくうとこと
ばうふあるぎやうじやうこうこんあれあるまこう
をとこけさとうのてあこうふうるとれむこそ
あれひやうぐとちやくしたくうこうふてふ

しきうれいうさあれうちがうたうひとれ
かゆうぞうたうこもあれめしれうたんん
けいゆてえさせんおとそそれざうめたうぞ
くうけうのこにいふくそれ。いぐくはうぐを
のうこせんとうまふあうこのあうは。是を
こしゆきうふぐんこふあうはくうて
おまがうこうとうぐこうけうるあうぬさ
うちうんぐえ六寸の太刀まそしびをうげうやう
うてはこつくうはせぐこうこ今こうき
たうくうのうあとなうれきうんとして太刀れこあ
これうはぐをもこまそしひこあてくし
けうかくふおあ着いいそるあちぐなうそる。牧

十人のうちたちうちかをあらそ
ひけるもひとりのそれ時弁慶やう〳〵矢の一
ちをうんとせれ四ちそひ射ぐこうてしれなん
どもがこうれうれ。一こふみこ行うてをてんすん
ぞこてし。大乃まるこよかぐをそのびあらうら
うれた其こうの七八天しもあうこゆう大乃法師
なういうれるさぞんを天さこふたこれるいたぐ
しこを笑てしうこうさうう射よ行まが女房こうう
うらいれうぐみんの乃なこひ人をみ一ヨアさね
なう。今乃ていしのがあ門こうをいひ〳〵ふこういな
ゆう〳〵弱へこ。ふ紙あうこさてて行ぐこうれた弁慶
ぐこうこうこて有へ一こ〳〵ゆうこきう

ぜんそのせうやうにあのかたのはるかひと
ゆめのごとくしてうむことを居うけるおん女
ちうちうちうてよばひひろうこうこのこと
女ちうをむかへてつまこと日おなじよみくの色
をゝせめうちとそづうさまこうへさうてえん
いとてまのうちとも思ひ給ふ。うたをひつく
みくせうぶたそのせんとあなたもこ今一度は
同じよかくへしと思ひつまてなうへいなりは
場の太刀のこんつれがうちのよあうちうこれ
たうこうしうちうちうんごとうのまうあうてみ
ひく云ふうしたうちのの太刀のこのうれがうこ
かあうちうがせれうからのちよなうちうちうこ

殺へてまうひそう。弁慶よ
ちうだいまてどんとゆう。とく六こんようとう
けあうさとひくきたうひそうがまこうくとと
たくこてうさどうのてひやうとうとう。今やう
をとこうひそれ。一度はうと思へしも世はかと
をなれたものと思いをいうのゆあうさ茶の上
おをくたゆのうまでまのかうこうこだおて
たうくとれうむうんとうまうびんのこうとのん
てうこうひとまこうくうれは。安をうは山うこうう
学てうれうぜんどのうまゆくのんまてうんどやう
うこうのまとなうこうれた。きうのうとうどんうう
このれうまこぬようこれは備の方なん

まてむじやうてんぐ乃うえ世とゝ世ゝ世
おかゆゝなりたゝいとゝめさるへきこゝの法
も聞てまいゝせんとて弁慶さいそゝろこゝ。女
房おとこふもよさらうぜんへそゝ思ひ。あゝ
もづゝやゝ思ひるゝ。ゝたゝけゝろ事をれゝ。
たゝとみゝてゝぜんゝもうとゝいゝたゝを
あけさせ数ゝ乃ゝゝとゝせゝろゝ。金ごんない
せんい山乃ゝゝ。ゆゝゝや太刀ゝられ。その外まゝ
初あやゝき。何よのゝゝゝゝあゝんゝれこのゝゝ
ゝひよまいゝせんゝんとゝゝ。弁慶もゝゝゝ
まんゝゝ。たゝかゝゝゝゝぞゝなゝ。たゝゝをゝゝゝ他
ゝゝ人ゝゝゝゝ

乃大なるふとりてとりぶんの下ふへやせん
こもをこしぬこらをされたるまんのうらめと
とかるふ人乃こゑしけまこえみいさこの恩ひ耳
をそえこそ空そらふ。めをこ人ともあけまう
てこうこうこうこ乃長うたうだうさんぞくう
いぞくの相語をし。ゑのもうんをこのへぶくなる
ゑ。中よりも行とありこをれ中そうぷうんやれうら
あひいうふこめ行ぞ。そせんなれさけをこぞ
てこゑぶぞふめんくの乃ふまぶくまりしむやく。
うべよりんくえよまれくこやひたうふふぶん合
えりはゑ乃即いまうこうこうこうとんぶうこてやせう
しの一をもひこ。ありこうこれ市まてきろぶん新く

こいしをそ何こくくくくこくこ。事あくくく
中をれ。行ぶなるをれこくれをきて。ゑこてこそ
まぶ思ひこうこうこをこうをこんしぶれまこ
中をもこなべ乃ぞんこ乃せこうのもく紙なるたう
ちの山いあるこうこ。ぶし夜こうちをここあ
行こくたくこうのこくんぶむのんなり。たゑま
こうめうてひやうぐをつるこくふうくをれ一
度よをこうこうをこよせてぞあやぞんこあん
乃こうなること。一月ぶこうきんしてこくこいあこ
のこれ乃こくふせいをこうへひつぶ乃こくふを
しこんこんこ乃ぶめてぶれたいこんこうを

弁慶きいてくわかるふよろこびぎんしゅうかんを
なぶらうてうとそうへさとかりぶさこころよ。孫ふ
ものさいそいとて。ゆうそんそうりうへそゆくさそう
いまこさうてんのこうれんぶんまのいるれら
あのようてあのさせてぎめてんとさうてゆくさ
くれれていしめきいくあるのさまーやこまいの
ばそうきそうそやいうせんとそのうひそるる。女
そうこうれをそう。ふくなりさよきえめてしうの
きんをいうくえているせそうへけてちうとるば
なくひあうこのうくまうせ弁へとそやうて
まうたう二人いてて。ぎやうーいまこまゆそうん
をとくめそうこめちちゆんけいまそそふつと

あはせたるとて。ゆかせんふまらうてかのこゝやう
とさくじめをもろ。りとくとんぎさく一つとうきき
りあうれもどうくおうろうをたしうう。女ろう
をゆうさろもそのほう家のひろうたうじをを
いうまきて。ひはよれもうとたうれしうぶ。ぶこうやう
をちやうをんして。かうちしきのあうぞとて。
うんるいきるふめいじうりうさるかしふまうくうつ
ヨとしいをもうようむしやしもがみちうくてぞん
をうぶうろへをとしまする。なふまうぞくうづぬき
ぶくぐうようろうひはりをこそ。たぜいをとりつてせ
むうなうと。ひめをさうりぶあひうぶちうにあうう
りをれ一人もありをぞんをうぐうろとゆうをへ

おうろうまりうとれをどりうをあひうろうろう。て
いしめをりてりかりうこうやうてんして。をもるる
きりぬも身ふをりをぞうろうるうりりを去もうつき
ゐうりりうりうりいなれ。をんをとうをこめをうる
くせあいるへきやうもなう。ぞんをうらうぐうや
ぐうへをうをあうう。矢たぐひうれ。さんくうる
いうりをりう。なんけいをうりてをうをうられ。
ひどろうへをふしあひりかりをやうハをうんた
をうをれりうりりうをうをまれうへして。一の一会
どいをしやとくくうをうれうれ。いをんや二をく
ろなうく。ぞうぞうふひりめてい。ぶをやうりりうき
ををしたくいをうをうぞんをりうもうぶやうるあ

くまのごんせうぼうといふものあり。
たくさんなるものなり。かゝるに行かぜいとせめ
られぬ。うちのうちへ入をのこもなんぎをみしよ
きりぬ。それをれ物をくれ女をうばなんの
いがまへよりひざまづき。もはやありせばさのいとを
をれとりそれぬやをれかゝりまして志げく
をものぐをさしをめくごんの太刀をたらら
をれさしまぬ。大長刀をふらりぐてもも
ちをろぐ。ぞをうをとをいつしみをしてやをぬ。足
をうををれをもをしをふをうの。をんをとひををををび
きをしをぬ。をうをへひををいりをしてをのをちをんををを橋
をとひをををぬをとを。をしをれぬをんのいをやを

おをををひをぬをんをとひをきをつををかををうひの
きぬ。ををれをををををびをて一所をなりをて坂をたををふ。
をををりををれををとひををいをきをんをのをををなれを。
をををびををををををいをををををををををぬををををの
ひをしやを三百家人ををの人をををををををを入をを。
をををををををををををををををををををををををを大をををををををををををををををををををを

しうん寺やうみ
ゐあつまつて。おかの
をと。おひつめ三十人
うげゐびてゆくうち
ようれやうがいよそて
おひもなくうそそ。そ
女ども。家乃ものら
者をとられい神うかと
とて。ゑ紙あしせら
けいやうやう。ゑ慶三
りうろう小袖よもの
ようれけうつまやうも

きとそアくろ。さそてゆきとろいそれよらゐ
ゐひて。ゆれあへおかの世あのられよそアそれい
ゐんのいがおかへよゐくうひ。ものやうさ人アあの
ゐれあ乃ものくくまりのさそ。めて。
おかのさようんじ袖ひて。ようゐやうゐんひゐや
ならとて世ゐようとやうとんぐされいよくて
むじやうしくろとなり。そゆくちむさそう
く海野へさんのいをまびおりひさぐやらいご
ひゐゐぶやうよいぐゐくゐ

かりろくだうみてとそうやてあらぜんの手象
寺へ参り。佛ぜんよりおりて新んじゆしてあんずる
よりおとをとひきこうやうなるうめぎなり。りり道
ゆくけうれうこうろうあんしゆうれとも
うち事あり。ようくゆ思へいけ空ゆ日いこうひを
せをとしてとぜんなるうこ。ぶれて有へしさぶい
さうひしして。佛乃ゆうこゆ入へしてる中球
ありきまもれをもろうつきあひてあり。あう法へ
立入くこけきてちぐこ大京ぶはこうひら通
乃ゆうこきてあこぬこう。塵ようきあんの乃て
いなる庭ようれまりをくくゆ山中ゆも奇ゆがあい
てゆくけりこあいなけきこもぞいこうひを

ぜんといふて、そこにて弁慶
をとらへんとせいあるとて、
してはアさんとゐたり。何事ぞとこゝ
いつへきてゝ、ものまきれ
ものゝ、はぞアそれ
てわこがまくらうつ
いまうとゐぞとこゝ
ぢきをみよりてアやう
アせあれや今そ
はいはそうらはう
ゐんくとそのう
れを弁慶をうさ〇てこ

ひかくこはらんこへまきをうらもおれやう
ふこはうれぐやうなうそこ門はめんくのう
しらともそのへとゐひてたくらとあさてまく
ひそれはうれた大きも大よりとそしぐさくぐ
はこんとてわらちんこあらめんく
ゐ大刀長刀のさやとそつ我さはあくかつけ
まこは弁慶よいろこび様よ仏神のそらひうて。
そのうなくさくまうのこいのの坊ら
やくいかせぐくしてあ
そくこてあやまらしぢるようこへおさせ弟へ
とそ大庭さしておくろがこうろふくとれはこ
し。弟ろうさまして云やうはやそふれやそう

なれをいさうひをたりめうる事乃れりうさよ
とて解とひらさうれへくとまゝさそうもあと
乃あうおいすへ山法師なりしかしてぞうり
あげまうぶへせんなれまつぶくひむやうのうで
きてそとおやしうう西塔乃むさし坊弁慶なれ。
一ゐがれうてもうあもそいたうしうへむやくく
とて引うへせぞ。そくむ拍子そなうれ。きは弁慶
やそうしに思ひてあ乃そうへ行て海の老よ拍子
せんと仕れし大しめ。こゐまきれうそいひ。
山法師へゆきて。おうせんと仕ひうくいひげく
よ海うひ。ぞんさんよううへしそうさめくれ
うも。おあうきれそあうれ

ばうへいあひてるのきこいちうあり。そこに弁当堂
寺とぞおぼゆるかたわらのいさうひろ門
おうしてしてろうびくらいもうられ又中うこ
下ほとろうが。かくなくさらまれもよりやへ新
備せんこんしんしづうお新んじのしてぞんさ
きいちもんろおしやうをさたこうてそんしや
うとおういこぞたりうこうれまへよ六ものも
ろくもりとこのいてそうのくぞんろごうと
ぢこいんぞとろがうつまんようりてごろりぢこ
をいきうめこうきこんろうしてありりり
きこれのうこうふぞいろ法時うれこものこれ
うれとてこうあひこあるん人ほくろいあ時ろひさ

しこうう弁当堂こうこそめいよれれかれかころれ
ときこうぢろよ新んこうろなりていこうこぞやうこう
とおりくろうりこぞこうろ海こころ弁当堂こうこいよ
もあしこうこそ。よあろんん人ほくろいあくおろよきも
よれがうおうこそぜんこうもぢろこいうぞこてお
大しこの二人ひさこうここいあ弁当堂こうこてありと
ひうさこうこうこうこうこそこそこひくれ。みさうれこ大しこの
ほくろうろうこうんりむやくたりあがりてみようこう
いうこそうこれむこうこてあうこてむさこうおうこうりを
こうこめくろう。めこうこうこうを大酒こうこそこりこりろ
おろひおくれいこ大こうこだうこりこりうぞんこ
をこうこりこうこうこうこれれりりこ思こ大こう

ようあひたんのかうさうにてぞあれこれ弱をうに
一首のうつくし
むさしもうあれこれうつ海みさとよりう
ひやうしとそうにてはるかこしめしやう
きこえのはうにひうけとうにて
るんけいをひうのようそみうりけき
めようもれとはさけてそうわや
るんけいこれをいきうにてはうきてはは
うつうなんうてはのはあうて花はさびら
いとうよちこ御所むさしとうそうひうれて
人のありあぬむさうぶはうそう。そう日はの
あくぎやうのうてばれぐうんようれうる

うこ思ひてさぐうそうれたうそくこのもうの
はさてきはつのはうこよゆきさて水うこぶみ
きねかうこうとうあく。あく道程のうひこや
人のうへあうざさうそれうかうへうかうへぶづう
かくこふむうひてうくこみとうつてうひうそう。
弁者よ思うやう人のあうこうろうざりひとうへさ
でうあうへさとぶはこうぐとこうんうこうれど。
評はきうひうせんとと思ひそうぶのくうらうこ
へんり人このまぐれうろうこうれうきてんを好て。
きうろのうちやうつとうこめはぶきてうぶふとんよ
てれうこうそうぶうらきようこうてうぐめん東
とたうこうこうてうかんきうとこぐんと思ひやが

て大うだうのもらふ
ちよしやかうしまれひきめをかくらそう
うめきいていいけうとてあり
れうりちやうつとうどうぎゆくへたしそうぐ
まつぼくてしようくしうくうそれいちやうと大
おつさどうどうぎゆくたうおうぐひし
ひしうさうこめうぐうしへのがうひとそやく
ぢせ山中乃きやそぎきうれそうぬよれどろ
きて大しやれうひきうれいうぐしとうひ
とちう矢とうをれもうりあへそうれたうう
だうへぞれりうるちやうと大しやるむうひて
りされうれ我南山よりて六十余年乃せ

いさうとまうひしうこめうこういきん年老れい
おようてそんじうこうと其うれあり。あるいせ
ようせうそんなう今りやうしらきよりとうふう
いうんせんだんうあひてとうこうぬとうれどせ
うがぼうつきうよりこうりとせんそうとうこう
らうこれうちうときうこめんうとそどうこうのつ
うふうをうひうれいう大しやれのくれつきて。結
むようれうりとうさ海くふりうめ。大えいゆめく
きうこうさうこうそんうそどういうこうう。梅
いきやくこうう海外じやうりやうりうどやうんうこうぐ
さうきうやうどうじやつうこうみうこうめてうこうたうう乃
まへよりうそうこうう。弁考よれぜんよりうこめし

てゆきうりぐ今はおぶんようなりぬるしぬひ
の中よりくぶんのしやうぐくえわしうちんのひ
るれのきくらげおげくおきうりとさらのて
そまれるそもの大六寸の
太刀をとりぬらぐられようかうち十文字ようし
きぬうりをのりとれよまきさりとりてめてのを
きかを長刀いこうでたりあぐばきさたしのの
中へおりうかを方をみより。あくおびたくしの
夫方やしいひてうしめあをにうぬりーやを。
くぐんのうりうれめるさってよなるをきうてし
なひうきぬ弁をまるかふくふとてたーめうち
をうくをめんでうあ山の大えいんぐどやえん

てうぐかうおあるんのかうあよまるひぬ
ぬりーやをそいうれうりるれうなしさんがうとうれ
つてに二ぬうを立てをうつうりうる。其はちやーをと一
の才ぬうきんをんめうきあんくいんうしくらんぐ
のひうこたきこうをうぬうきいぐの乃をばおめうを尺
一寸のいうれたくうのうをうとをれうきうえの乃長刀
うれよりいこうでうた大えの中うりをくくれたをん
じやうこうをーやうをもくくれぐをくくひうて。
あの乃をうう人をゆうをあようきぬうぐやれな
こうれいきうくうぐ其こうへおあうぐめうーやれな
たうあーたをそうくせうれまーまれあよ
をうれをうふぐーをやをれなれうきめをうんぬが

あんけいこれをきゝてあさましくひしてやうあ
しだはめがしやだうざんよむしてうやまふへ
き人なり。さりもまさしんえしやうもたり
さてこれをうやまへをそぞそうぎんぐ
きいちきんのそうるれいうめぐつきるれた。
あんけいがたしよかきこころあれたうてぞめと
のたしこのうへをそれたうしやうまうしいよ
をあり。そらようこころこれをそれうしが
まざなりぞうくきあるぞやうしやらおぞが
ぞうしいうとをあつめこうの中
まてあひてをこうこうあなうこいぞん
わんぞうやうれよやうぞうふ

それかとあつこうせうるこさきのぞうごんこ。
れかしとそこいつ。弁のいさいくさそしれるるんぐ
うれこうるかくざうんぬゆへよつらきてぐ海ーハ
さ物て。まつうこうこうこうれなこいつ。長こうれ
きんれんるふうかいこ海るへこさ。長刀こうかそ。
ひこうこうんでかこうる。ねるんけいいいちこふてこなこ
なこそうむひこうりてこうだうつうへよるけあ
けこうる。きんなんこれあこそこうれしだ刀試
あいてこんつてこうれる。ねるんけいこれどこそれ記
もんこうこなこうこてこうこそこめこしこれどもう
うだこうつうへよなのこうこぐこそこもいここれて
ちまこうおせんここあこうこなこうあんむつへえ

しこそいつう。大なこうもこここうひとこつけてこうつてこうる。
ひこうこだこうここうこ。こここちこうふ少こをみるいかなふ
ここぞ。あやまこうこそこうる。これもこここひこうこて
れれこくたこうつうへこうこうあつこうこ。きんここんこ
ふつうこうこうこ。こここうこてつうこれこういここここつま
くなこうよふこ師こここうがこうこらこここうこてあこそ
ぶんここぞうれこうここうこうこうこうこうこ
ちこうここうつうこきんれんぶぐこうこぞこうこうこ訪こ
これここここ。ここうこれこうこうこうこうこうこうこ
ふふこれこ。あまいうぶこうつこうこ。こここ天あこ
これ大ぶこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ

まがうこと二ツのようなれどもあるべきぶ。ツ乃ま
ゐりからう合まれたるようにちゃうどあるこせこそ。そのうえ
ちゃうどあるこせこそ。そのうえ
ぎょうぎょうん行んをうちまわりたるようにてうちゃげよう
ちうちう。その時ぎょうん行んとれとうるれうんで
ぶうこうつへぶ。ぶうとをうるとうぶ。ぶうこうんで
ぶうとをもまこうれるようぶうんでしゅぶうこうぶうこと
一度ようようつまこうちうあり。ぶうをうれ
とりつぶ。こうて。大しゅいこうこうへう。一ようこうちうれ
なうとりうさやとうづし。ぶうりつさうれとうろへうこうつて
かうう。ひうこうしゅうやうまうぶうこうじうこうつうようこういひ
て。二人乃ぶうぶうこう。ぶうとうこうふうちうありせけ

まこうぶうみうちんようこうけけてうふうこうぶうこうぶうちう
たようなれるうぶうこうぶうこうようまうこうちうとりつこうこう
ぶうてうこうう。ぶうてんぶうこうこうこうぶうこうこうぶうこうこうぶ

あげてうだうへよなげあのうちそしくい。
くらまちぶねのあらうれいまやとうれと見ん
てゆるあさまやうろんしやうこうとれ
いうせとそ。十方へまつとうり。弁慶よりれうら
てうんぜんさておそうこうつうりやうぐ。
らんがだもうみそるあしろあくこうとい
たさぐいくうびもぐうろうれしゆうへし
さうあうちうがんとうそいこいやうて弁
慶うたうてまいうせうへしいよくちゆとの
あくぐうと考あうゆうて。ふへそうろう

元録年代 明治廿二年迄 百九拾一年 [illegible]

[illegible]

[illegible]

神田駿龍町壹丁目拾番地
三河屋幸三郎

4年　月

㊏

元録年代明治十二年迄百九十年

東京帝國大學圖書之印

東京帝國大學圖書之印

神田駿龍町壹丁目拾番地
三河屋幸三郎

神田旅籠町壹丁目
三河屋喜三郎